

鶴見区寄り添い型生活支援事業プロポーザル評価委員会 評価基準

【評価方法】

- (1) 各評価項目について、5, 4, 3, 2, 1の5段階評価を行う。
- (2) 各評価項目には、重要度に応じて係数を設ける。
- (3) 評価の視点は次のとおりとする。
5点:特に優れている 4点:優れている 3点:普通 2点:十分でない 1点:不十分である
- (4) 評価委員会に出席する委員の半数から、「1」の評価を受けた項目のある提案者は、原則として選定しない。

【評価基準表】

関連様式	No.	評価項目	評価事項(評価基準)	係数	上限配点	比重
1 提案者の概要・事業実績					15	6.7%
3	1(1)	提案者の概要	法人の概要や経営理念等が当該事業に適しているか	1	5	
	1(2)	提案者の事業実績	これまで実施した児童福祉や青少年自立支援・健全育成等に関する活動実績から、この事業の目的達成に十分な実績と信頼性があるか。	1	5	
		財務状況	団体の財務状況は、安定的な運営が見込めるものとなっているか。	1	5	
2 業務実施方針					20	8.9%
4-1	2(1)	現状の理解と課題意識	ア) 養育環境に課題があり支援を要する世帯の小・中学生及びその養育者の現状や課題を十分に分析・把握できているか。	1	5	
			イ) 養育環境に課題があり支援を要する世帯における子育てに係るニーズを的確に捉えているか。	1	5	
4-2	2(2)	事業実施方針	ア) 事業の実施方針が現状や課題を踏まえたものになっているか。	1	5	
			イ) 事業の実施方針を踏まえた事業運営が具体的かつ妥当であるか。	1	5	
3 業務実施内容と実施手法					95	42.2%
5-1	3(1)	小・中学生の日常生活習慣等を身に付けるための支援	ア) 個々の利用者の生活習慣の把握方法が、具体的で適切であるか。	2	10	
			イ) 個々の利用者の生活習慣や能力に応じた生活プランの立案、支援や達成状況の確認方法が適切であるか。	3	15	
			ウ) 不登校の利用者への支援方法は適切であるか。	2	10	
5-2	3(2)	小・中学生の学習習慣等を身に付けるための支援	ア) 個々の利用者の学習習慣や学力の把握方法が、具体的で適切であるか。	1	5	
			イ) 個々の利用者の学習習慣や学力に応じた学習プランの立案、支援や達成状況の確認方法が適切であるか。	1	5	
5-3	3(3)	安心して過ごせる居場所の提供について	ア) 個々の利用者にとって、安心して過ごせる居場所となるための工夫について、具体的かつ妥当なものとなっているか。	2	10	
			イ) 利用者へのプライバシーの配慮についての取り組みは適切であるか。	2	10	
	3(4)	支援実施に必要な事項	支援を要する世帯の保護者に対して、適切な相談、支援を実施できるようになっているか。	3	15	
			想定される実施場所は適切であるか。	1	5	
			送迎について、実施できる取り組みとなっているか。	2	10	
4 業務実施体制					40	17.8%
6-1	4(1)	職員の確保や配置	ア、イ、ウ) この事業を行うために必要な知識、経歴、実績等を有する職員の確保や配置についての考え方は適切であるか。	2	10	
6-2	4(2)	職員の役割と業務	ア、イ、ウ) この事業を行うにあたっての職員の役割や業務についての考え方は具体的で適切であるか。	2	10	
6-3	4(3)	職員の教育・研修	職員が、業務遂行にあたって必要な技術力を高めるための教育・研修機能は適切であるか。	2	10	
6-3	4(4)	個人情報の取扱い	個人情報取扱いに関する基本的な考え方は適切であるか。	2	10	
5 管理運営体制					50	22.2%
7-1	5(1)	業務実施における管理運営の考え方	ア) 区こども家庭支援課や小・中学校等と適切に連携できるか。	3	15	
			イ) 個人情報保護等情報管理について、管理体制が具体的に示されているか。	2	10	
			ウ) 利用者からの意見、苦情等の処理体制は整っているか。	2	10	
7-2	5(2)	リスクマネジメント	事故防止、事故発生時、災害発生等のリスクマネジメントについての考え方及び計画内容が適切であるか。	2	10	
	5(3)	新型コロナウイルス感染対策	新型コロナウイルス感染防止対策が具体的かつ適切であるか。	1	5	
6 収支予算					5	2.2%
8		収支予算の妥当性	収支予算は、業務実施内容や業務実施体制等に対して適切な金額となっているか。	1	5	
合計					225	100.0%